

富津市創生会議 会議録（要旨）

1 会議の名称	第5回「富津市創生会議」
2 開催日時	平成27年11月18日（水） 午後2時～午後5時25分
3 開催場所	富津市役所5階 502・503会議室
4 審議等事項	1 今後の人口ビジョン及び総合戦略策定のプロセスについて 2 富津市民委員会における討議について 3 富津市総合戦略素案の骨子について
5 出席者名	富津市創生会議委員（13名） 浅野 隆、岩沢 宏幸、櫛田 直也、小泉 敏、鈴木 裕士、滝田 一馬、武次 治幸、竹内 好美、中澤 道男、西田 美和子、早見 秀一、平野 都、森田 泰彰 事務局 副市長 高橋 恭市、総務部長 小泉 義行、 総務部参事 池本 幸司、企画課長 重城 祐、 企画課企画係長 中山 淳子、企画課主任主事 國吉 功二 企画課主任主事 赤井 聖、企画課主事 牧野 圭吾 企画課兼務職員 高橋 亮介、荒木 宏仁、藤平 隆太郎 一般社団法人構想日本 原田 将大
6 公開又は非公開の別	公開・一部公開・非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	8人（定員 20人）
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

第5回「富津市創生会議」会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>1 開会</p> <p>資料確認</p> <p>会議録署名人の指名</p> <p>第5回会議録の署名人は下記のとおり</p> <p>竹内委員 早見委員</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 今後の人口ビジョン及び総合戦略策定のプロセスについて</p> <p>(資料1の説明)</p> <p>質疑等なし</p>
構想日本	<p>(2) 富津市民委員会における討議について</p> <p>(資料2-1及び2-2の説明)</p> <p>資料2-1の3ページ中、「～<u>5.8</u>項目に分類された」とあるが、<u>4.8</u>項目に修正願いたい。</p> <p>質疑等なし</p>
事務局	<p>(3) 富津市総合戦略素案の骨子について</p> <p>(資料3の説明)</p>

	<p>これまで、希望出生率を上回った 2.1 の設定をさせていただき、市民委員会にて議論したところ、市民の希望出生率を上回って設定するのは 1.06 の現状の出生率からみてかなり無理な設定なのではないか等の議論があったため、市の内部でそれらの意見を基に検討した結果、希望出生率を叶えるということで 2040 年富津市推計を 3 4 千人とした。これでも、1.06 からみればかなり上向きの設定だが、このようにしていきたいということで変更した。</p>
事務局	<p>(資料 4 の説明)</p>
	<p>資料 4 については、事前にお配りしていたものとは別に本日改めて配布をさせてもらった。これは、第 6 回までの市民委員会の意見を追加させていただいたものを記載・更新させていただいており、差し替えをお願いしたい。</p>
武次会長	<p>まず、資料 3 について意見・質問はあるか。</p>
早見委員	<p>2 ページの人口の将来展望について、聞き漏らしてしまったので再度説明を願いたい。内容としては、「富津市の人口 3 4 千人とする」というところで、今までの議論が 3 5 千人で、今日配布された資料 4 にも 3 5 千人との記載があるが、これを 3 4 千人にしたところをもう一度説明願いたい。</p>
事務局	<p>これまで、人口維持水準の 3 5 千人設定の根拠としては、2.1 の出生率を設定させていただいた。しかし、現況を踏まえるとそこにもっていくのは無理ではないかとの議論・意見があったこと。また、富津市が近隣市と比較して合計特殊出生率が低い現状から考えて、市民の希望を叶えるという結論から 2040 年</p>

	<p>の出生率を 1.83 と設定させていただいた。それが叶った後に、人口維持水準を叶えるという目標に変更はない。</p>
早見委員	<p>2.1 の出生率だと 3 5 千人台で、1.83 だと 3 4 千人になるということか。</p>
事務局	<p>その通り。</p>
早見委員	<p>この内容で、今後の市民委員会へ説明していくということか。</p>
事務局	<p>1 1 月 2 9 日の市民委員会でこの方針を説明させていただく。</p>
中澤委員	<p>総合戦略骨子の構成について、今回の創生会議は人口減少対策を前提としてスタートしたものだと思うが、これを見ると人口ビジョンと富津市総合戦略が同じ位置づけとされている。個人的には、第 2 章の富津市総合戦略の内容が充実して実現するからこそ人口増加につながるというように思い、総合戦略の基本的な考え方を人口ビジョンの頭にもってくるか。ないしは資料 2 - 2 の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のような人口や仕事を含めたうえでのひとつの大きな冠をつけた方がわかりやすいのではないかと思ったがどうか。</p>
事務局	<p>2040 年に向けての推計である人口ビジョンと、それを解決する方向性を示す総合戦略というものと、どちらが具体的かということ、総合戦略のほうがもちろん大切なものなのでそれをもってきた方がいいのではないかということ。それと記載の方法ということの 2 点でよろしいか。</p>

	<p>2040年の人口をまず皆で共有したのち、その策が総合戦略となって出てくるという相関関係となっている。当然、総合戦略の方が具体的な話であるため、大切だという認識とともに、そのように記載をしていきたいと考えている。ただ、人口ビジョンの基本的な考えは、全国的にも立てたことがないことから、改めて現状と将来とをまず共有するということが大きな目的であることはご理解いただければと思う。</p>
中澤委員	<p>了解した。</p> <p>3ページ第2の総合戦略における戦術の中の、「高層建築物がない奇跡のまち」というところはあまり響かない。個人的な意見だが、基本目標が公文書的であるため、これを市と市民と地域の公約（～をします！という表現で）として強調した基本目標のほうがより緊張感があってよいかと思う。また、5ページの具体的な取り組みのテーマについて、「～の」ではなく市民が主体となるよう「市民が<u>できる</u>こと」の方がよいのでは。「民間」だとイメージが狭まってしまうため「企業」とし、「地域・<u>企業</u>ができること」。最後に行政の取組も「行政が<u>できる</u>こと」として、逆に言えば、「行政がこれはできるけど、これは市民や地域がやりなさいよ。」と、しっかり例示していただいたほうがよりよい報告書になるのではないかと思った。</p>
平野委員	<p>中澤委員に関連するが、4つの基本目標について動詞で終わっているものと名詞で終わっているものがある。文言は変わってもいいと思うが、揃える記述に改めたほうがよいのでは。</p> <p>また、2ページ中段下の文中「本当の意味で」のところがひっかかったので、削除してもいいのではないかと感じた。</p>
櫛田委員	<p>都市部に行くとき「～宣言都市」と掲げているところがあるが、</p>

<p>事務局</p>	<p>富津市が内外においてこれを宣言します！というようなものはあるか。あれば教えてほしい。</p> <p>最近宣言したものはないが、宣言としているのは平和都市宣言がある。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>宣言都市というのはニュアンス・イメージだが、富津市はこれでナンバーワンを目指しますというような公に出しているもの。例えば、庁舎ロビーに空港を誘致すると掲げてあるが、あれぐらいの勢いで全面的に出しているものはあるだろうか。ここでいう基本目標とはまさにそこなんじゃないかと。これから富津市が〇〇をやります！と、市民としての決議をどう表現するかという場だと思うが、まずはそれがなかったということがひとつであり、それを決めるのがこの会議なのではないかというのが1点目。</p> <p>資料4についてだが、案を3つに分けられると思う。これはやって当たり前なのにやっていない不足部分と、やるべきことだから改善すべきもの、そして、他でもこれはやっていないまさに新しい取組と、この3つにしっかり分けないといけないと思う。例えば、掃除は当たり前の話で、改善したらよいというのは、PR方法を変えるとかこれまでの行政でできなかったけどこれができるように条例を変えるだとか。この中で本物の意見というのは、他でもやっていない富津としての新たな取組ってなに？ということだと思う。この中でいうと、全く新しいというわけではないが「フリースクール」とある。自然環境がこれだけ豊かだから、「学校体制に依存しないフリースクールナンバーワン都市を目指します！」と宣言したら、学校に通えない親御さんは全国から殺到するかもしれない。住環境でいえば、「地元の建産材を使って建て替え率50年を目指す」と宣</p>

	<p>言するだけで、住宅ローンは次世代にいらなくなるという意味になるので、今度それを達成する技術を備えた企業が集まってくるわけで、何かとんがった政策、とんがった市民の決議というものを、市民の意見を聞きながら作っていくということが重要であると思う。今までそのようなものがないとすれば、決議を作れる組織を作るということが今回の意義なのではないか。</p> <p>「〇〇をします！」という宣言をするのは簡単と思うかもしれないが、実現するのは難しいと思うので、実現するにはそれだけのスキルやノウハウがなくてはならないと思う。とんがった戦略を作れるような市民決議団体みたいなものがないのかというのが私の意見である。</p>
武次会長	<p>戦略というものはあっても形だけのものになってしまうことがある。</p>
事務局	<p>現在の基本計画及び基本構想について、基本構想における理念としては「連携と自立」、将来都市像としては「躍動とにぎわいやすらぎとふれあいの交差するまち」である。</p>
武次会長	<p>名詞だけで終わっている表題は名前だけになってしまって、先程発言があった「～をしよう」とかのタイトルでないと生きてこないと思う。</p>
事務局	<p>櫛田委員の発言にあった、不足・改善・新しいというのは当然の区分だと思う。</p>
櫛田委員	<p>行政側でやっていることはもちろん必要だからやっているわけだが、市民が期待するものとギャップがあることも考えられる。市民がなにかやりたいと思ったときに、集まれるような</p>

鈴木委員	<p>壁のない組織を作れないかと思い、今春から「あんでも広場」を立ち上げたところである。</p> <p>宣言という形で外に打ち出すことは重要。また、目標を立てたらそれを実現する組織づくりが必要だと思う。</p> <p>総合戦略のシティープロモーションについて、北中心になりがち。富津市の恵まれた自然というのは南部に集中していると個人的に思っており、打ち出す根底の中に南部の恵まれた自然やポテンシャルもぜひ取り入れてもらいたい。打ち出すには相応のPRとそれを形にもっていく仕組みが必要であり、打ち出し方もとんがったものにする必要があるのではないかと私も同意見である。</p> <p>(休憩)</p>
武次会長	<p>資料3 富津市総合戦略素案の骨子について、他に意見はあるか。</p>
浅野委員	<p>骨子の全体像については、富津市民が思っていることがここに書き込まれているが、これを方向性としてどうやってそれを実行していくか。誰がそれをやるのかを骨子に入れておいた方がより具体的な計画になる。</p>
事務局	<p>実行する主体として、骨子の中に固有名詞を入れるということか。</p>
浅野委員	<p>骨子の段階ではマクロの話だが、総合戦略を策定する上で今後ミクロの話になっていくと思う。その時に固有名詞を出さなくとも農業であれば「地元の農家の方と金融機関が連携してや</p>



鈴木委員	<p>る」、空き家に関しては「地元の不動産と金融機関が連携してやる」など大まかな形でよいが、実施主体がわかるように記載してほしい。</p> <p>計画をより具体化していくためには、誰がそれをやるのかを決めておくことが重要。</p>
滝田委員	<p>この計画を見た時に市民一人ひとりが、主体的に動かなければならないと思えるかが大事で、そう思うには危機感しかない。要望として、骨子の第1章の第2「人口の現状分析」の第2項、第3項をもっと危機感の湧くような表現にしてほしい。</p>
櫛田委員	<p>先ほどの話にも出たが、誰がそれをやるのかといことについて、ボランティアが一つの重要な主体になる。例えば、他市には無いもので、富津特別委員などという名誉を与えて「市役所の運営がうまくいくために組織された民間団体」、「市役所の出来ないことを民間でサポートするためだけに集まったボランティア団体」をつくることができるのではないか。富津市民からなるボランティア団体を市が表彰する、貢献してくれた人を褒めていくことで団体のステータスを上げていくようなボランティア制度をつくることは、富津版の戦略としてできるのではないか。富津のために貢献したいと思っている人がたくさんいるにも関わらず、その人たちが活躍できる制度が何も無いというのが問題で、そこで市のために動くボランティア制度をつくることが重要。</p>
早見委員	<p>骨子の3ページ、第2「総合戦略における戦術」の「戦術」とい表現は「具体的施策」などのもっとやわらかい言葉に置き換えた方が市民に浸透しやすいのではないか。</p>

西田委員	<p>二点ある。一点目は、骨子についてはまだ素案の段階ということなのでこれはこれでよいが、誰向けに発信して全体的にどのようなトーンで書いていくかということ。素案を見ても前提となる事実を淡々と書いている部分と、市の宣言、呼びかけと思えるような部分がある。総合戦略の本文にそのまま載ってくる文章なのか、そうでないのかを明確にして議論する必要がある。市が主体的にやる宣言なのか、市民に向けて呼びかけをしていくのか、市の思いや考えをただ述べているのか、公的文書のように堅い文章にするのかなど、そのあたりがあいまいで市の立ち位置もぶれてしまう。これは第一校なので良いが、次回の第二校には今言ったことが反映されていてほしい。</p> <p>二点目は、推進体制、進行管理について、本当の意味でのPDCAの仕組みにしていくならば、状況が変わったので変更するというものではなく、成果報告、自己評価をした結果、出来たこと出来ないことが見えてきたら捨てるものは捨てて切り替えるのか、時間軸としても5ヶ年を年次でどのようにまわしていくのか、ということを中心に述べておいたほうが良い。総合戦略をつくっていくなかで、今の富津市の基本構想を再度検証、反省してそれが総合戦略にどう活かされるのかを議論するのも良い機会で、15年前の基本構想で描いた将来の富津市像と現在の富津市では大きな違いがあることからPDCAの徹底が必要である。</p>
事務局	<p>総合計画の反省点として、今回の総合戦略の策定には住民参画でやっていくといことが一つ。PDCAサイクルにしても、創生会議、市民委員会を毎年実施して、KPIによる指標を基に時点修正していくことを想定している。</p>
西田委員	<p>「進行管理」だけでなく「成果報告」を求めて「自己評価」</p>

	<p>をきちんとする。出来たこと、出来ないこと、修正する必要があることなど、白黒つけて進まないで5年間はすぐに過ぎてしまう。</p>
事務局	<p>市の考えも西田委員と同じなので、3ページの4「進行管理」という文言を修正してP D C Aに相応しい文言で対応させていただく。</p>
森田委員	<p>計画期間が5年なので、個別の計画ごとに事業実施から完了までの年数を当てはめていくのも進行管理をする一つの方法、例えば農業で言えば、ハードルを低くして人を集めるためのシステム構築を1年以内にやって、2年目以降に次のステップに進むなど、事業計画のステップを時間で管理したほうが良い。</p>
武次会長	<p>実施事業のうち重点事業に特化して期限を決めてはどうか。</p>
事務局	<p>市としては個別の事業ごとに期限を決めて計画をつくることは、自分の首を絞めることになるので辛いのは事実だが、ある意味そういうことをやっていかないと結局今までと変わらない。行政の取組みとして、資料4に記載してあるとおり、やってあたりまえのことは、ただちにやるべきだと思う。他市でやっていない取組みなどは、計画の初年度から実施することは難しいが、重点事業などは、なるべく期限を明確にしていけるよう庁内調整に努めていきたい。</p>
西田委員	<p>資料4におけるK P Iの設定について、すべての事業に設定するのか、事業を抽出してやるのか、誰が設定するのかを確認したい。</p>

事務局	<p>K P I 設定については、事業課の意見もあるので現在庁内調整中である。</p>
平野委員	<p>資料4について、具体的な施策について決まったならば、施策ごとに評価をする欄を設けてほしい。また、年度ごとにその年の重点事業がわかるようにしてほしい。</p> <p>人材バンクについて、委員の方、市民の方が持っている情報を分野別に市として把握・保有・蓄積すべき。また、先ほど浅野委員が言っていた「実施主体」の明確化について、実施主体が相談できるよう市の担当課、係も明確にしておくべき。</p>
竹内委員	<p>以前、町の先生に登録したが、一度も呼ばれたことがない。市民に認知されていないのではないか。</p>
小泉委員	<p>先ほど市のスローガンを立てるべきという意見が出たが、みんなで一つ良いものをつくってみんなが共有して進んで行けたら良い。資料4に記載されていることを全てやったら本当に良くなると思うが、そのやり方、進め方をみんなで議論していく必要がある。</p>
中澤委員	<p>今後、市をコンパクト化していかななくてはいけない中で、市の基礎的な自治制度を補完するものとして、区長のポジション、役割を明確に市の行政組織の一部として位置づける必要がある。現在も区によって区長の仕事、役割にばらつきがある。区長をきちんと行政の一員として位置づけて、研修なども実施して区長を行政機能の一部として活用してほしい。</p> <p>また、移住から定住に向けて5年間のフォローアップ制度を設け、アンケートなど移住者の声を吸い上げて、施策に反映させるようなことをしないと、移住から定住に結びつかないので</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>はないか。</p> <p>区長権限の底上げに賛成する。市としてのスローガンを掲げる前に、まずは区の意見が大事で、自分たちの区（自治体）をどうしたいのか、という意見交換するだけでも市民の区や市に対する意識の向上になる。起点となるのは区長さんで、区長さんが宣言をして、それを区の意見として市の考えをまとめるといいう仕組みをつくるだけでも市民の意識は変わる。</p>
<p>岩沢副会長</p>	<p>マンパワーが限られているので重点施策を決めることが重要。</p> <p>次回の市民会議で市の重点項目の提案が市から出来るのかどうかポイントになるのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>11月29日の市民委員会では庁内調整も含めて重点項目の提示は難しい。</p>
<p>岩沢副会長</p>	<p>P D C A のことも含めて言っている。重点項目を決めて P D C A もそこに設定するようにしないと、総合戦略として厳しいのでは。</p>
<p>武次会長</p>	<p>いずれにしてもすべての事業を実施するのは難しい。絞り込む必要があると思う。資料3について、他に意見はないか。無いようなら資料3については以上とする。</p> <p>(休憩)</p>
<p>武次会長</p>	<p>資料4について、付け加えた方がよい点等の意見があったら発言をお願いしたい。</p>

鈴木委員	<p>最終ページ、観光関連について。</p> <p>金谷は鋸山があり、いま自然景観遺産や産業遺産として価値があるということで大きな評価を得ている。観光に携わってきた中で言わせてもらえば、流行は長続きしないわけで、その土地に根ざした歴史や風土は残っていくということ。今後、富津の観光資源をどのように生かしていくのか、方向性をしっかり示していく時期ではないかと考える。少なくとも、観光というものを切り口として発展させていくには、非常に切り離すにはもったいないポテンシャルがあると思う。鋸山は近代化で石材に貢献したという観点からも、ほかの近代化遺産の認定を受けたものに引けをとらないぐらいの素晴らしさがあり、認定を受けてもおかしくないとも言われている。ただ、それが市の史跡等になっていないという現状がある。</p> <p>住んでいる住民も観光資源を認識しきれていない部分があるのではないかと。少なくともポテンシャルのある資源を見過ごしてしまうのか、将来の目標を立てて取り組んでいくのか、この土地の観光をどうしていくのか非常に大きな分岐点になると思っている。こういうものをほったらかしにして道の駅建設を進めてもうまくいくはずがない。(意見として以前発言をしたがここに記載がない)</p>
事務局	<p>会議録から漏れてしまい申し訳ない。道の駅の話は、市民委員会からの意見として行政の取組に挙げたものだとということで認識してほしい。</p>
榎田委員	<p>君津市では三船山マルシェというイベントをやっている。市がお金をかけ整備したところで、観光地になりそうな使われていない場所を利用してイベント等をやってくれる人をサポートするということが連携だと私は思う。使われていない魅力的な</p>

事務局	<p>スポットがあつて、そこを活用したいというイベンターやプロモーターの人たちを行政としてどうやってサポートしていいのかという制度が必要。おそらく、観光協会や商工会等を通じてやることになると思うが、ほとんどそれが形になっていないと聞いている。どのようにしたら、行政が背中を押してあげられるといったような相談窓口だとか、その辺を提案したいと思うが、現状であれば教示願いたい。</p> <p>補助金の仕組みの考え方だと思うが、市では平成14年度からまちづくり関連事業ということで補助金（自立を目的とした初期投資として3年の期限付き）を出している。ターゲットに絞った補助金の仕組みが必要だという議論は庁内でもある。</p>
櫛田委員	<p>ひとつの企画に対してどういう立場の人たちがやるかという考え方が必要だと思う。</p> <p>ひとつの提案としてローカルマネーを挙げる。この地域でしか使えないマネーを作ってその地域で消費しましょうという考え方。行政がやろうとすると財政の圧迫に陥るので、これを企業に参加してもらえる仕組みづくりが必要と考える。</p>
岩沢副会長	<p>以前、富津に誇りをもってもらおうという議論があつたかと思うが、実際に子供が見たことのない市内の観光場所もあるかと思う。こういったところを教育委員会に働きかけて授業のカリキュラムに組み込めないものか。人材バンクを活用し、産業に貢献した方や地域ボランティアを通じて、子供たちにぜひ見せておきたいというものを探して、地域の力を活用してできないものかということ案として挙げさせていただく。</p>
櫛田委員	<p>市民で学校の課外授業を受け持っている人がいる。これは、</p>

森田委員	<p>学校とその課外授業の先生との個人的な繋がりできている。仕組みというものを行政でシステム化することができれば簡単に実現できるものだと思う。</p> <p>「農業やるなら富津においで」といった具合で呼びかけるとともに、農業のハードルを下げる等具体的なものがないので、この辺で新規就農者を支援していくことを具体的にしていく。緩和していくというだけでは、それがいつになるかも明白に打ち出さなければ、人（新規就農者）は集まってこない。</p>
早見委員	<p>鈴木委員にお聞きしたい。金谷から東京湾クルージングができるような船を集めて、今までにイベント等を検討したことはあったか。</p>
鈴木委員	<p>不定期ではあるが、イベントとして羽田沖までフェリーを出したことがある。また、館山花火大会やサンセットクルージング等、観光を目的としたこともやっている。</p>
早見委員	<p>できないことはないということか。</p> <p>海堡やアクアラインをくぐって海ほたるを回ったりだとか、そういうことを富津の海の幸を使用した食事付きのクルージングとして提供できないか。観光の具体的な施策に盛り込んだらどうか。可能であればだが。</p>
鈴木委員	<p>フェリーは民間企業であることから良いと思うものはやっ ていくと思うが、2隻の運行であり通常運行を間引いてやる ことになる。また、国交省の認可等の問題もあるかと思う。</p>
早見委員	<p>当然、フェリー会社の立場も考える必要があるが、クルージ</p>



鈴木委員	<p>ング運営会社を新規に呼び込むことで、雇用が生まれ、来訪者も増えることが考えられる。</p> <p>就航する場合、フェリーの規格に合わせた栈橋となっているため、どのような船が着けるかということになってくるかと思う。</p> <p>話の中ではあるが、オリンピックのときに東京からお客様を呼び込んでもいいのではないかという意見も出ている。</p> <p>現在、海堡に着岸できないまでも周回するような企画はやっている。</p>
早見委員	<p>地方創生の予算をつけるのに目玉となるようなものが必要。金谷でのクルージングというものは目玉になるのではないかと思い発言させてもらった。</p>
西田委員	<p>私もその意見に賛同する。</p> <p>回遊させることが大事。海から陸に上がり地産のものを消費してもらおうプランなどはないのではないか。</p>
滝田委員	<p>7ページの空き家促進について、地域民間の取組のところで「地域ごとに利用の指針を取り決める」という一文を入れていただきたい。地域によって、特色が出てくる問題ではないかと思う。</p>
浅野委員	<p>不動産屋と話をしていて、農業や飲食をやりたい人等々、目的別に絞ったらどうだろうという意見がある。</p> <p>金融機関としても、どこに空き家があるのかわからない。</p> <p>2013年、富津市は千葉県土地建物協会南総支部と協定を結んでいる。これを活用してリストを作るところから始めたらど</p>

	<p>うか。現段階の取組は不知だが、機能していないということであれば協定を見直してみるのも一つかと思う。</p> <p>婚活について、どのタイミングで誰がやるかということだが、富津の一大イベントといえば花火大会であり、今年は市民主導となって行われたわけだが、市内の若手経営者に尋ねたところ、まさに花火大会のような場でやったらどうかという意見があった。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>HPに頼らない告知の方法をどう考えていくか。</p> <p>宮崎県の自治体プロモーション動画が話題となっているが、これを起点として人口が増えるかといえばそうではない。ネットはあくまでも必要だが、興味を持った人が初めて見るわけで、まず大前提としてこれに載せたからプロモーションになるというわけではないという認識を持たないといけない。どうやってネットを活用したらHPを閲覧してくれるのか。企業や市民を含めてPRの教育をしていかなければならないと思う。</p>
<p>武次会長</p>	<p>終了時刻を過ぎているが、事務局から何かあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第6回「富津市創生会議」の開催について</p> <p>12月11日(金)午後1時から503会議室にて開催する。</p> <p>(終了時刻 午後5:25分)</p>

以上